

龍蔵院寺報

第 四 号

発行所

匠瑳市野手1824

龍蔵院法務所



「お盆を迎えて」

一、先祖との絆を改めて考え、過去・現在・未来へとつながる命の永遠性について思いを新たに、先祖代々の有縁の霊に対する供養・おもてなしの行事を行いましょう。菩提寺では、誰からも供養されていない無縁の霊に対しても供養の法要を行います。

二、先祖回向とは

家の永続の願い。死者の位置づけは、家の先祖になるというもの。そして子孫から供養を受けることで先祖となり、そのかわりに子孫の生活を守護する立場になるといふもの。家が続く限り死者はその家の先祖として供養され続けることが出来、仏さまとなって家を守護してくれることが願われます。家が絶えれば死者も無縁の霊となってしまいます。普通サラリーマン家庭の場合、親子が別の職業に就いたり離れた住居に住むことが多

くなりました。継承されるべき「家」は形式的なものとなり、死後帰属する集団としての家の觀念も意識することが困難となってきたように思われる。（犬の家はハウス・人の家はホーム）

三、墓は永遠の「故郷ふるさと」

“千の風になつて”という歌は現代日本社会の人間関係のはかな儚さともろさを表しているのではないか。無宗教という若者の中の考え方のひとつとして、信仰を持たない人間は仏を信じない。ただ人間の存在を遥かに超えた大きな力があつて、それが自分達を生かしている。地球も宇宙も生かしてくれている。そういう大きな存在は信じられる。という考え方の人もいるようだ。しかし今命を授かりこの世に在ることの意味に気がつくことが重要であろう。自然は大きなホスピタルという文句もあるが、ただそれだけではすまされまい、いずれにしても皆宗教以前の問題。

※裏ページに続く

四、無財の七施

①眼施 (悪い目つきをしない)

②和顔悦色施 (和やかな顔)

③言辞施 (おだやかな言葉づかい)

④身施 (手をかしてやる。手伝)

⑤心施 (周囲に気づきをする)

⑥床坐施 (公共の乗物で席をゆずる。老人・不具者・病人・妊婦などに。)

⑦房舎施 (住いや公共の場所などで、清掃に協力・ポイ捨てや危険物を置かない。)

以上の七施は、お金や物が無くても誰でも実行できる布施(ダーナ)の行です。

五、一神教原理主義は、教祖の教えが全てで、それ以上考えず、思考をストップするので、平和と結びつかない。イスラム教シーア派とスンニ派の内戦はとどまることがなく自爆テロも相変わらず起きている。相手の敵を一人でも多く殺せば今より良い世界に生まれかわれるという宗教なので極めて困ったものだ。

日本は多神教又は宗教オンチとも云われる。日本以外の国々では、生まれながらにして家の宗教が決まっている。日本では神々のラッシュともいわれ多くの新宗教がはやっていいるが原点を理解せず、ご利益を受けるつもりでも結局は迷ってしまうケースが多いようだ。

六、仏教と共に日本に入ってきたヒンドゥー教の神々で仏教化されて日本人が信仰している神々は次の通り。(但し日本本来の神とは異なる。)

①帝釈天 (インドラ)

②水天 (ヴァルナ)

③閻魔 (ヤマ)

④弁天 (サラスヴァティ 女神「弁財天」)

⑤毘沙門天 (ヴァイシュラヴァナ 「多聞天」)

⑥吉祥天 (シュリーラクシュミー)

⑦夜叉 (ヤクシャー 樹木に宿る鬼霊)

⑧馬頭観音 (ハヤグリーヴァ)

⑨聖天 (カネーシヤ シヴァ神の息子)

⑩大黒天 (マハーカール)

⑪摩利支天 (マリイチ 蜃気楼やかげろう)

⑫鬼子母神 (ハーリテイ 地母神の一種)

⑬金毘羅 (クンピール 「神体ワニ」) (航海の守護神)

⑭茶吉尼天 (ダーキニー)

⑮妙見菩薩 (方向を司る神)

日本人はヒンドゥー教の最も良質の部分を仏教を通じて受け入れた。



龍藏院所蔵

開運 摩利支天

川崎大師京都別院笠原寺の歴史

昭和56年3月1日初代執事に就任（川崎大師より特に依頼された）



昭和58年10月16日
本堂落慶法要・式典
大津執事挨拶（現龍藏院住職）



本堂建立地鎮祭の導師 大津頼宥
右役員 設計者大森健二等



青葉まつり大般若経転読会法要記念 平成26年6月15日 川崎大師京都別院 笠原寺

特に依頼され、久しぶりに法要に出て、続いて説法を行った。

檀頭 土屋誠様 仏像寄進



→ 緑檀の観音立像



本堂建立に多額の浄財を寄進された
土屋誠様。護摩祈願に来山

〈お知らせ〉

国立文楽劇場（大阪）

『真言宗智山派総本山智積院の声明―常楽会―』

公演のご案内

今秋、平成二十六年九月十三日午後三時より、大阪国立文楽劇場開場三十周年記念特別企画公演として、私たち真言宗智山派の仏教音楽Ⅱ声明が披露されることになりました。今回の声明は、普段は聞くことができない「常楽会」という声明でお釈迦様の徳を讃える大変有難い曲となっています。出演は総本山の声明の先生方とその弟子の方々と、龍藏院副住職大津永聖僧正も出演致します。

鑑賞ご希望の方は、☎〇五七〇（〇七）九九〇〇 国立劇場チケットセンターまで連絡ください。

入場料は、一般 四三〇〇円

学生 三〇〇〇円です。

興味のある方は、是非ご鑑賞下さい。



〈主な行事〉

◆ 一月五日

新年初祈願護摩法要

◆ 一月十六日

初墓参り（寺への年賀）

◆ 二月十五日

お釈迦様涅槃絵
しやかさまねはんえ

◆ 八月十二日

盆総供養

新盆精霊特別法要
せがきえ

無縁精霊施餓鬼会

檀家先祖代々各霊

戦没英霊

戦災殉難者等

◆ 八月十三日

墓参（寺への盆供）

◆ 春秋彼岸

◆ 毎月一回ご詠歌研修発心会
（入会者歓迎）

◆ 会社・役所等の社員職員の
研修会申込次第随時行い
ます。